

別記様式 1

会 議 概 要 書

審議会等の名称	第1回「(仮称)子ども図書館」基本構想策定市民懇話会
担当部課名	教育委員会事務局教育部 中央図書館
会議の開催日時	平成28年10月18日(水)午後1時~3時20分
会議の開催場所	磐田市立豊田図書館 2階研修室
出席者(職・氏名)	<p>委員：鈴木正善、山中光枝、米田俊彦、若井まち子          村松真利江、鈴木真代、林 文香、鈴井ひろみ</p> <p>事務局等：村松啓至教育長 井下田覚豊田支所長</p> <p>教育部：秋野雅彦部長、伊藤八重子中央図書館長、          永田幸義豊田図書館長、伊東直久主幹、          横井暁子主任</p> <p>こども部：水野義徳部長、高比良紀恵子子育て支援          課長、伊藤修一子育て支援G長、大石優</p> <p>建設部：渥美英之営繕企画G長、杉浦輝</p> <p>(株)都市環境設計 設計部企画課課長 田戸義彦(敬称略)</p>
議 題	<p>1 事業概要と素案について          (事務局及び企画提案チームから説明)</p> <p>2 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体像について</li> <li>・子どもと保護者が使いやすい図書館について</li> <li>・誰でも気軽に相談できる子育て相談窓口について</li> <li>・子ども読書推進の拠点図書館について</li> <li>・施設・設備について</li> </ul> <p>その他</p>
配付資料等の件名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「(仮称)子ども図書館」の概要について</li> <li>・「(仮称)子ども図書館」検討経過と今後の予定</li> <li>・業者選定時の審査資料(株)都市環境設計からの提案資料)</li> </ul>

概

要

1 事業概要と素案について

(事務局及び企画提案チームから説明)

- ・子育て支援機能と図書館機能を兼ね備えた複合施設
- ・公立図書館の機能は保ちながら図書館の概念にとらわれず、親子が共に楽しみ成長していけることを目指し、癒し、安らぎをテーマとした図書館とする
- ・子育てに関する総括的な相談窓口を設け、専門職員を配置し、誰でも気軽に相談できる施設にしたい
- ・子ども読書活動推進の拠点とする
- ・子どもの成長ステップを踏んだ図書配置ができないかと考えて、参考にイメージ図を作成した
- ・今の施設内にある家具も加工して再利用する予定
- ・子どもが夢を描ける雰囲気大切に作っていきたい

2 意見交換

全体像について

- ・専門職員の配置について
- ・専門家(カウンセラー、発達障害の相談)の配置要望
- ・ことばの教室、学習支援の場所としての活用提案

(事務局) 保健師・保育士は常勤の職員を考えている。子育てコンシェルジュは就園支援、幼稚園・保育園情報の提供等の役割を担うものと考えており、加えて、子育て中の方の就労支援も行っていきたい。

(設計士) 働く人の意見を聞き、実際に配置することが一番重要。意見を徴収してコンセプトに汲み上げるために、現場で働いている人の意見を吸い上げ始めている。

子どもと保護者が使いやすい図書館について

- ・子ども図書館の蔵書構成（一般書の位置づけ）
- ・友達づくりや親同士の交流に期待
- ・子どもを連れて飲食もできる場所に期待
- ・子どもを乗せるカートがあると良い
- ・子どもを連れて親がほしいものが揃っている
- ・早くこの図書館ができると良い

（事務局）NDC（十進分類法）の0～9門にとらわれず、暮らし・料理などのカテゴリで手に取りやすい蔵書や配置にしたい。

誰でも気軽に相談できる子育て相談窓口について

- ・地域で子育てするのが難しい昨今、気軽な相談窓口といっても本当に気軽に行くのか疑問
- ・「子ども図書館」というネーミングは堅い。行きやすく相談しやすい工夫が必要
- ・飲食のマナーをどうするか研究が必要
- ・公会堂で地域のおじいさんおばあさんがボランティアとして若いお母さんや小さい子どもたちの面倒をよく見てくれる。その拡大版としての期待が大きい
- ・応接室の西側をオープンにすればもっと気軽に相談ができるのでは？
- ・入ってすぐにわいわいラウンジや子育て支援ゾーンが見えるのはとても良い
- ・YAコーナーがブラックボックス化する恐れあり
- ・成長の流れに沿った配置がよくできている
- ・図書館に行って気がついたら相談できたという状況が一番良いのでは
- ・ボランティアスタッフをたくさんつけても良い

のでは

- ・悩みは人に話すだけで半分になるという。そういう聞いてくれる人がいる場所をめざしているという解釈でよいのか？

(事務局) 相談が非常に増えている。子育て支援センターでは H25 に約 400 件 / 月、H26 は約 600 件 / 月、H27 は約 800 件 / 月。離乳食の作り方や赤ちゃんが夜中によく起きるがいいか? というような様々な相談が寄せられる。行ったら相談ができたというのは重要な要素。毎日だけでなく人を配置できればと思う。また遊び場が少ない。円形の部分から楽しく遊んでいる様子が外から見えることで、これまでこれなかった人をどう導いていくかということも必要になる。

子ども読書推進の拠点図書館について

- ・未就学施設との連携
- ・児童サービスは豊田が拠点になるのか
- ・ボランティアの養成について
- ・図書館のイメージは堅い。子どもの目線まで下げることができるか

(事務局) 現在、図書館では幼稚園、保育園、支援センターなどに出かけておはなし会などを開催。学校等へ団体貸し出しも実施している。5 館それぞれで児童サービスは行わなくてはならないが、その中核的な役割を豊田が担うものとする。ボランティア養成講座を終了した方に活動してもらいたいと考えている。

	<p>施設・設備について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エントランス（玄関先）の工夫が必要</li> <li>・ 自販機はあまりにも前面に出過ぎ</li> <li>・ 相談室の防音の確認</li> <li>・ 半円形のガラス張りのところから出入りできるように提案したい</li> <li>・ 駐車場や自転車置き場は足りるか疑問</li> <li>・ 周辺の交通安全に配慮してほしい</li> <li>・ 授乳室の場所（トイレの近く）について</li> <li>・ おむつ交換台の安全策をとること</li> </ul> <p>（設計士）授乳室はもっと気持ちのよい場所に置きたいが、既存の施設を改修するので設置する場所が限られる。</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの意見を聞いてもらいたい。公園を造ると、子どもから「欲しかったのはこんな公園ではない」と言われることが多い。子どもの意見を聞くことができるか？</li> <li>・ 子ども図書館でメディアをどう位置付けるか対策が必要</li> </ul> <p>（事務局）子どもの意見も聞くようにしたい。</p>
備 考	<p>懇話会として、豊田図書館内に利用者からのご意見をいただく「ご意見箱」を設置することを承認。</p>